

## 平成 28 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会 議事要旨

日 時 : 平成 29 年 1 月 5 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 20

場 所 : いの町 かんぼの宿伊野 1 階 会議室

### ■ 平成 28 年度第 2 回仁淀川清流保全推進協議会

#### ○ 事務局より委員の紹介

- ・出席 7 名、代理出席 2 名、欠席 4 名

#### ○ 議題

##### (1) 報告事項

##### ① 河口域ごみ分析勉強会の実績について

事務局より、資料 1 (P1) に基づき、平成 28 年 8 月 7 日 (日) に開催した河口域ごみ分析勉強会の実績について説明。

##### 【説明要旨】

- ・ビニール類や発砲スチロール、さらに時期的なものとして花火等のレジャー系のごみが多かった。
- ・先行して開催した 5 部会で、1 回のみイベントで終わるのはもったいないという意見も頂いたことから、来年度以降も何らかの形で継続したい。

##### (大下委員)

- ・左岸側では、国土交通省より出水時の写真説明も受けながら、ゴミが多い状況を確認できた。左岸側の特徴としてはごみが大きく、つい最近捨てられたと思われるもの (例 : 食品包装ごみ) がそのままの状況で残っていた。

右岸側の特徴は、発砲スチロールが砕けたものが多く、右岸及び左岸の違いも分かりやすかった。

現地視察→清掃等の実践→座学の流れで、子ども達も熱心に取り組んでくれて、勉強にもなったと思う。今後も継続して開催できればよいが、参加者に偏りがあったことから、その辺りの改善が望まれる。山間部からは朝早くに出発する必要がある。

##### (事務局)

- ・山間部からの参加者を想定し、暑くない時間帯を再検討するなどしたい。

##### (山崎委員)

- ・河口は広いことに驚いた。ただし海に注ぐ所は狭い。  
プラスチックを魚類が食べて、循環しないか心配である。

## ②第6回仁淀川一斉清掃の実績について

事務局より、資料2（P2～P6）に基づき、第6回仁淀川一斉清掃の実績やパックテストによる水質調査結果、会場別参加者内訳等について説明。

### 【説明要旨】

- ・一斉清掃には、(有)高知アイスの社長も参加してくれた。
- ・高岡中学校は事前に水質調査を実施し、当日に結果を発表してくれた。
- ・伊野商業高等学校は雨天のため、先生のみが参加してくれた。
- ・佐川高校の生徒が当日参加し、パックテストを実施してくれた。
- ・水質調査結果は地図上に示し、来月開催予定のシンポジウムで掲示する。

(高橋委員)

- ・土佐市会場に参加したが、ごみが多かった。海からのごみも多いのか。

(大下委員)

- ・川からのものが多い。一斉清掃時には、人が通るところは先に掃除されたりするので、多少は減っている状況である。

(高橋委員)

- ・伊野町会場では少ないように感じた。

(中澤委員)

- ・伊野町会場では、同一箇所でも国土交通省主催のものや、一般の方を含め様々な団体も清掃してくれている。

(大下委員)

- ・パートナーシップ交流会で話が出たが、いの町加田でも藪の中にごみが多かったり、出水時には袋ゴミが多かったりする等、地域ごとの特性もある。

(高橋委員)

- ・参加者の構成について、例えば伊野町会場では参加団体の広がりが見える。今後は水質調査などで学校へ呼びかけ、子どもの参加を促したい。

(大下委員)

- ・日高村でも熱心に清掃活動に取り組んでくれている方が多いが、竹藪等にごみが多い。参加団体が増えることはよいことで、学校にも広げていきたい。

## (2) 協議事項

### ①第6回仁淀川シンポジウムについて

### ②仁淀川シンポジウムでの発表内容について

事務局より、資料3 (P7～P13) 及び「昨年度ワークショップで出た意見について」に基づき、第6回仁淀川シンポジウムの内容等について説明。

#### 【説明要旨】

- ・新居小学校での学習会は雨の後であり、水生生物は少なかった。エビやカニの採取も行った。
- ・学習会で使用したパネルは、(有)高知アイスの寄付金により作成した。
- ・今年度のワークショップの川の部のテーマ (⑩～⑭) は、他の項目 (⑧～⑨) への波及効果も期待できる。

(新宅委員代理渡辺仁淀川出張所所長)

- ・国土交通省の展示について「汽水域の魚」から「底生生物」に変更したい。仁淀川清流保全推進会会長展示予定の「移動水族館」をサポートできるようにしたい。配置は配慮願いたい。

(山崎委員)

- ・仁淀川をPRする上で、特徴のあるのが「石」である。横倉山自然の森博物館でよく展示しているが、こういう機会にPRしてほしい。「石」がなければ「仁淀ブルー」はないと思う。

(中澤委員)

- ・観光協議会にもあるので使用してもらってよい (50cm 角×2個)。

(石川会長)

- ・スペースは大丈夫か。

(事務局)

- ・大丈夫です。

(石川会長)

- ・ぜひお願いしたい。

(森谷委員代理松本計画課長)

- ・ワークショップについて、川の部、山の部の各2ブースは同じテーマを議論するのか。

(事務局)

- ・同じテーマ。それぞれ最大15名程度の定員を想定している。

(森谷委員代理松本計画課長)

・自伐型林業についてコメントするのは、森林管理局の立場では難しい。森林についての一般論になると思う。

(山崎委員)

・自伐型林業については、漁協が黒森山で実施するなどしているが、浸透はまだまだのように思う。自伐型林業もテーマに入れるべきだと思う。道づくりが災害の原因になり得ることなども議論したい。

(大下委員)

・ワークショップのイメージが分かりにくくなるため、自伐型林業なのか森林の荒廃なのか焦点をどこに当てるかが重要である。森林管理局も以前、植樹だけでなく里山の荒廃問題も重要であると言っていた。一番最初のレベルの意識の共有が大切だと思う。

(山崎委員)

・山の現状がこれでよいかという認識が重要だと思う。

(石川会長)

・自伐型林業の話で混乱したかもしれないが、山の荒廃の現状を知ってもらうことから始めていきたい。

山の管理という難しいテーマの前に、現状を知ってもらうことが何より大事だと思う。

以前から山が気になっており、やっと出来るという思いがある。

(井上副会長)

・一般の人には何故間伐が必要かも分りにくいのではないかな。まずは基本的なところから始めるのがよい。

・昨年度のワークショップで意見のあった川の駅に関しては、仁淀川町で第1回目の会合を開催した。昨年度の意見はキャンプなどのイベントのイメージだったと思うが、仁淀川町では、1年間常設のイメージで話し合いをしている。例えば池川439交流館で危険箇所の紹介など川のことが分るようなものをついた話もあった。

(中澤委員)

・川の危険性に関して、昨年も水難事故が発生した。危険箇所マップを国土交通省が作成しているが、仁淀川の観光にとって、水のきれいさと同じくらい危険性の周知も重要である。

今回のワークショップで取り上げることは意義があると思う。

(新宅委員代理渡辺仁淀川出張所所長)

・危険箇所マップはコンビニや波川にあるボックスに置いている。

(井上副会長)

- ・ AED の配置箇所等の情報も記載しているのか。

(新宅委員代理渡辺仁淀川出張所所長)

- ・ 記載している。また地図上で川の流れの変化点等を図示している。

(石川会長)

- ・ 仁淀ブルー観光協議会にも置いているのか。

(中澤委員)

- ・ あるが部数は少ない。

(新宅委員代理渡辺仁淀川出張所所長)

- ・ 年間 1,000 から 2,000 部印刷しており、HP でも公開している。  
物部川では過去に携帯等への危険箇所情報の配信を検討したことがある。  
現地で大難事故多発という看板を設置している箇所もあるし、市町村の教育委員会で遊泳禁止としている箇所もある。

(石川会長)

- ・ 注意喚起する立場にある人がワークショップに参加してくれればと思う。  
流域が一体となって第 6 回仁淀川シンポジウムを開催できるようお願いしたい。

### (3) その他

(大下委員)

- ・ 近年、各主体が観光分野に力を入れているように思うが、安全面の啓発は重要であり、今回のシンポジウムでその辺りが話し合われるのは大変うれしく思う。一方、観光をエコツーリズムという視点で考えると環境保全と地域（観光）振興の両立が求められる。しかし、現状の第 2 次仁淀川清流保全計画には「地域振興」の視点がないことから、次回改訂時には、組み込んでいくことが重要だと思う。

(井上副会長)

- ・ 環境保全に取り組みながら、観光や産業、地域振興にも力をいれていくことが重要だと思う。

(大下委員)

- ・ 観光振興は環境にとっては必ずしもプラスに働くわけではなく、地域振興が重要であり、環境保全とのバランスが重要である。

(中澤委員)

- ・ 源流である石鎚山系の魅力を発信するため、愛媛県の西条市、久万高原町と連携して、年 3 回程度会議を開催している。観光客を呼び込むのが目的であるが、環境部会も設けており、環境保全の計画づくりにも着手している。

- ・仁淀ブルー観光協議会の西佐川駅舎への移転開所式を2月23日に、吉田 類氏を迎えて開催予定。今後、さらに協議会を利用してほしい。

- ・東京海上日動（会長が高知県出身）ビルで、まるごと高知フェアを開催し、伊野商業高等学校の生徒も参加し、仁淀川の観光PRを行う。

(石川会長)

- ・仁淀川清流保全計画について、第一次は水質に特化したもの、第二次は環境保全を組み込んだ。「仁淀ブルー」を契機に観光客も増加しており、環境保全とともに安全確保に力を入れていきたい。

(井上副会長)

- ・安居溪谷でも、以前人が泳いでいなかったところで泳いでいる姿を見かけるようになった。

(山崎委員)

- ・科学雑誌「Newton」で、14ページに渡って、高橋 宣之氏による仁淀川の特集が掲載された。これは素晴らしいことだと思う。

(吉村委員)

- ・近年、仁淀川の魚が減少していると言われており、これは川が痩せてきているのが問題だと思う。流域全体で考えていく必要がある。

- ・「仁淀ブルー」の知名度は上がってきているが、それでもごみのポイ捨ては増えている。そういう人に、仁淀川の現状を知ってもらい、シンポジウムにも参加してもらいたいと思う。

- ・建築分野におけるCLTの普及もあり、木を急激に伐採しているように思うが、伐採後の植樹計画があまり聞こえてこない。山の今後を知りたいと思う。

(事務局)

- ・国産材の利用推進は政府の喫緊の課題であり、多くの木を伐採し、木材を使うことになるが、シカによる被害等の懸念もあり、伐採した後が重要である。

県においては、皆伐の場合も含め、伐採の後は植林するようにしている。苗木による造林は減少しているが、ポット苗で山にすぐ植樹できるよう進めているところだ。

伐採後の山の放置は、川や海への影響が大きく、全国森林計画や地域森林計画で皆伐後も復旧していこうとしていることから、PRに努めたい。

(山崎委員)

- ・山に関わる人も減っているのではないか。

(事務局)

- ・人手不足や高齢化の問題について、県林業学校で人材の育成や自伐型林業を学

んだ人による普及等によって、全国から人を集めてくることを目的に取組を進めている。

(森谷委員代理松本計画課長)

- ・国有林においても、森林資源を活用した地方創生に貢献する考えである。  
伐採後は植林し、シカ対策を含めてコスト削減にも取り組んでいるので、民有林の関係者とも情報共有したい。仁淀川シンポジウムの機会に、一般の方にも森林の重要性をPRしたいと考えている。

(高橋委員)

- ・主伐（皆伐）後はすべて植林していくということではなく、採算がとれない場合は天然林に戻すような取組等、低コストでできるシステムを国有林と進めている取組もある。

(新宅委員代理渡辺仁淀川出張所所長)

- ・仁淀川シンポジウムのポスターの背景は河口のイメージだと思うが、どこかに依頼して作成したのか。出典のクレジットがないのが気になった。

(事務局)

- ・デザイナーに依頼して、作成した。

(石川会長)

- ・将来のことは今から話し合っておかないと間に合わない。水はきれいだが生物は減少傾向にある。水質だけでなく、何が原因なのか、何ができるのかを流域全体で考える必要がある。シンポジウムでは幅広い分野の人に集ってもらい話し合いをすることが重要であると思う。

以上。